

平成31年度第1回八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

1. 会議名 平成31年度第1回八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会
2. 開催日時 平成31年4月25日(木)
午前9時30分～午前11時25分
3. 開催場所 スパティオ小淵沢 B1研修室
4. 出席者
 - (1) 八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会委員
小林昭治、半田裕、福田良樹、五味公守、小澤一、鈴木清、鎌田晴之、利根川昇、名取孝三、清水正隆、永井秀直、五味勇吉、五味孝文、河角清一、小平雅彦、細川昭二、小平恒夫
 - (2) 北杜市
市長、総務部長、地域課長、企画課長、総務課人事室長、農政課長、林政課長、観光課長、商工・食農課長、まちづくり推進課長、道路河川課長、生涯学習課社会体育担当、生涯学習課ホール担当、学術課長、中央図書館長、地域課ふるさと創生担当
 - (3) 長野県富士見町
総務課専任課長、総務課企画統計係
 - (4) 長野県原村
総務課企画振興係長
5. 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 委嘱状の交付
 - (3) 会長あいさつ
 - (4) 市長あいさつ
 - (5) 議事
 - ① 八ヶ岳定住自立圏共生ビジョンの変更(第4回)(案)について
 - ② 次期の八ヶ岳定住自立圏共生ビジョンの策定について
 - ③ その他
6. 公開・非公開の別 公開

7. 傍聴人の数 1人

8. 審議内容

■同(5)議事 ①について、説明がなされた。

■質疑応答

【委員】

P9の八ヶ岳観光圏支援事業の事業概要の中で、日本版DMOの取組を支援するとあるが、日本版DMO登録法人の取組を支援すると修正してほしい。

また、数値について、P36の指標について、来年度からどのように取組むかという部分もあるが、外国人観光客誘客を国策としてどの地域も重点的に力を入れている。東京オリンピックを控え好調な状況にある。しかし、八ヶ岳南麓は宿泊者数が伸びていない。国としてもインバウンドに力をいれ、交流人口を増やす取組を行っているが、現実的には、KPIが厳しい状況にあるので、見直しの検討を行ってほしい。

【北杜市】

現在のKPIは、策定時のものであるが、当然、社会情勢の変化等により実態に即した形も必要になってくる。平成27年度から平成30年度までの進捗状況を検証しながら検討をしていきたい。

【委員】

P9の事業費は、平成30年度は決算額、平成31年度は事業予定額とあるが、事業予定額ではなく、予算額ではないか？

また、P26の平成29年度決算額が異なる理由は何か

【北杜市】

P9については、予算額と同じ意味として捉えている。

また、P26については、旧の数値は、平成29年度中の懇談会の開催による見込額であったため、今回の開催により確定額を記載している。

【委員】

P26の文化財を活用した地域活性化事業について、原村にも色々配慮していただいている。

今後は、縄文文化という部分で観光活性化を進めていくととなるが、縄文文化だけでなく、様々な時代の繋がりによる遺跡もでているので、歴史に繋が

りが出で、地域の誇りが伝えられるような発信の仕方をしてもらいたい。

また、図書館の交流事業について、情報共有というのがあるが、自分は、原村と富士見の図書館はよく利用しているが、北杜市の図書館は、興味深い図書館が多いが、情報が目に見えてこないなので、どのように考えているか。

【中央図書館】

情報発信としては、観光のパンフレットや広報などこれまでの図書の情報共有以外にも発信ができていて感じている。ただ、まだ足りない部分もあるので連携して取組んでいきたい。

【委員】

忙しい中ではあるが、イベントなど行っており、特に北杜市は8館あるので、どこで何をやっているのかなどがわかるとありがたい。

【中央図書館】

富士見町や原村の図書館とも連絡を取り合い、イベント情報の共有もしていきたい。

【学術課】

文化財の地域活性化事業については、縄文文化に特化したものではない。

日本遺産事業として、縄文文化の観光資源化によりインバウンドの増加により事業展開を行っていきたいと考えている。外国人の方は、縄文文化のみならず、農作業の風景や原村の饅絵など色々興味があると思う。縄文文化が足がかりとなり、文化財による地域の活性化に繋がるような展開を考えている。

【議長】

八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン第4回変更については、原案のとおりでよろしいか伺います。

【委員】

承認

■同（6）議事 ②について説明がなされた。

■質疑応答

【委員】

現在、八ヶ岳定住自立圏として、3市町村で実施しているが、都会の人から考えると八ヶ岳全体をイメージできる。今後、中部横断自動車道の関係もあり、北杜市は、まさにその真ん中に位置することから、例えば、佐久方面や茅野方面などもっと大きい範囲で行っていく必要があるのではないかと考えている。

【北杜市】

当然、北杜市は、中部横断道の関係もあり、南牧村など佐久方面との繋がりも深い、ただ、それぞれが抱える枠組や事情もある。北杜市としても、甲武信ユネスコエコパークの関係もあり、一層連携を深めていかなければならないと考えている。

【委員】

必要に応じてヒアリングを実施とあるが、ぜひ、実際の声を聞いてほしい。懇談会のような横断的な会議も大事だが、個別のテーマでの情報共有は大事だと考えている。

【北杜市】

北杜市では、前年度の検証として地域課と担当課のヒアリングを実施している。第2次の方向性を決める必要があるため、3市町村の担当者会議などの開催を呼びかけていきたい。

【委員】

移住施策として、空き家バンクに取り組んでいる。移住してもらって終わりでなくて、就労や住宅などの相談以外にアフターケア、トラブルがあった場合の対応や地域住民との交流の場の確保などそういう部署など充実していく必要があるのではないかと考えている。

【北杜市】

北杜市では、今年の4月1日から長坂総合支所内に「移住定住・しごと相談窓口」を設置した。

移住した方は、地域性も違い、こちらに馴染めないことも当然あると思う。

移住相談では、様々な相談があり対応しているが、移住したら終わりではなく、移住後も相談またサポートできるような相談窓口として充実していきたいと考えている。

【委員】

これからの公共交通について、住民が段々高齢化してくる中で、どのように交通体系にしていくかが課題となっている。

今、富士見町のBスは、一日100人弱が乗っている。土曜運行も試験的に行ったが、現在は行っていない。

定住圏としても色々な運行形態を考える必要があると思うが。

【北杜市】

北杜市では、現在、富士見町のデマンドバスが白州町の大武川地区に乗り入れており、住民の足が確保され感謝している。

北杜市では、公共交通の見直しを行っており、今後、地域の公共交通運営委員会などで運行方法などを検討していく。

富士見町との連携も今後課題になってくると思われるので、そうした場での議論を行っていきたい。

■同（5）議事 ③その他について、説明がなされた。

- ・教育部学術課より、【縄文文化観光資源化推進事業】の説明
- ・北杜市移住定住・しごと相談窓口の開設について
- ・八ヶ岳で暮らそう相談会の報告について

■懇談会終了後、道の駅こぶちさわ農産物直売施設の視察研修を実施。

以上

